

B 2 1 2 中 級 (オンライン聴講あり)	<h1>企業における侵害予防調査</h1> <h2>～侵害予防調査のポイント、対応範囲～</h2> <p>侵害予防調査を行う際の手順について～ 調査の着手、調査範囲、調査結果のスクリーニング方法</p>
講師	弁理士 佐藤 寿 (佐藤総合知財事務所、元ヤマハロボティクスホールディングス(株))
日程・場所	東京会場 → オンライン配信 (受講者端末) 6月25日(火)、11月26日(火)
時間	1日間 (10:00～16:00) // 昼休憩 11:45～12:45
アクセス	https://www.jpds.co.jp/company/access.html
定員	東京会場 24名 / オンライン 30名 (先着順申し込み)
受講料	20,000円、(税込 22,000円)
対象	知的財産部門の担当者、特許調査担当の中級者
内 容	
<p>商品開発の初期から発売直前まで行われる侵害予防調査において「漏れがあってはならない」「でも、膨大な件数はチェックできない」「それで、どこまで調査すべきか?」「結局、この検索式でいいのか?」と、多くの方が限られたリソースのなかで迷いながら調査されている事と思います。</p> <p>本講座では、機械・電気分野を想定した想定実例を主に、開発・設計現場でのヒアリング、実際の検索式作成・調査から結果のとりまとめと報告までを効率的に行えるように、企業の調査実務に通じた講師が丁寧に解説します。知財の調査実務者、開発・設計部門の調査を担当されていて、さらなるステップアップを目指す方に最適です。 ※JP-NET 用いて事例紹介いたします。</p>	
プログラム	
<p>1. 侵害予防調査に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特許調査の種類と目的 ・ 侵害予防特許調査の全体フロー ・ 特許分類の基本と使い分け ・ 検索式の作成と修正 ・ 検索式作成における注意点 ・ 関連用語の解説 <p>2. 想定事例による調査工程の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒアリングから調査テーマの決定 ・ 検索式の作成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 予備検索、本検索、補充検索 ・ スクリーニング用シートの作成と運用 <ul style="list-style-type: none"> ➢ シート用データの取得とシート例 ・ 調査テーマとの関連性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーニング結果の記録 ・ 調査結果の掘り下げ ・ 調査結果の報告 <p>3. 調査後の手続・関連知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査後にすべきこと <ul style="list-style-type: none"> ➢ S D I 等の選択肢 ➢ リスクの高い特許への対策 ・ 調査の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 効率的なスクリーニングの TIPS ➢ パテントマップの活用 ➢ 関連キーワード等関連情報の整理 ➢ 他のツール・情報ソースの活用 ・ 調査管理体制/侵害予防体制 ・ 外国特許調査における注意点

【お申込み】

当社ホームページよりお申し込みください。

本会場： URL: <https://www.jpds.co.jp/seminar/application.html>

オンライン： URL: https://www.jpds.co.jp/online_seminar/application.html

【備考】

セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。ただし、オンライン聴講の場合は継続研修の認定対象外となります。